

iPadでニュース番組を作成。 独創性を問う主体的な取り組みが さらなる学習意欲向上の一助にも



北川 彩
早稲田大学非常勤講師

語学の授業における大きな課題のひとつは、いかに学生から主体的に学ぶ姿勢を引き出すかということである。北川講師はiPadのアプリを使って英語のニュース番組を作るというプロジェクトを実践し、その成果に手応えを感じている。

ニュース番組制作体験で、 時事英語を実践的に学ぶ

早稲田大学を卒業後イギリスへの留学を経て、私立高校で教鞭をとってきた北川講師。2017年度より早稲田大学の教育学部において「英語中級コンプリヘンション(時事)B」という科目を担当している。これは同学部の一般英語科目のひとつとして設置されている通年授業で、1年生から履修が可能だ。リーディング・リスニングを中心として時事ニュースを英語で理解することを目的としている。

就任当初はシラバス通りにリスニングとリーディングを隔週で扱っていた。座学の中にもペアワークやディスカッションなど学生が活動する要素を盛り込んでいたものの、もっとニュースや英語への理解を深めるために学生がより主体的にできる活動はないかと模索するようになった。

ちょうどその頃、本務校で、生徒のグループ活動にiPadを導入するという動きがあった。「私自身が中心になって関わった経緯もあり、大学の授業でもiPadを使って何かできないかと考えてみて、ニュースを扱っているこの授業では、自らがニュース番組をつくるという体験がニュースや英語という言葉への理解を深めるためのいい機会になるのではと思いました」。年間計画としてシラバスに記載していなかったため、学生たちの意向を聞いてみると前向きな反応を得られたことから、秋学期の授業で導入することを決めた。News-at-Waseda Projectという命名したその活動では、ニュース番組の題材として早稲田界隈にあるニュースを取り上げることにした。まずクジで決めた3~4人のグループで扱うテーマを決め、そして相談しながら英語で原稿を書く。グループ内でキャスターやレポーターなどの役を割り振り、キャンパスの好きな場所でインタビュー映像などを撮影して、教室に戻ってその動画を編集し、3分程度の番組を完成させるという流れだ。

映像で見ることで、 話し方を客観的に振り返ることができる

動画の撮影や編集には、iPadを4台用意して貸与した。iPadの中にあるiMovieというアプリを使うと、動画をつないだり字幕を入

れたりという編集が誰にでも簡単にできる。「中には自分のiPhoneにデータを送って時間外で少し手を加えた学生もいましたが、動画自体はそれほど凝ったものである必要はないので、基本的に授業時間内の作業としました。iPadの操作には学生も慣れているのに加え、アプリも直感的に分かりやすくできているため、一連の作業は特にトラブルもなくスムーズに進んだという。「私の方で事前にマニュアルも作っておいたのですが、実際には不要でした」と笑う。

完成後はクラスで鑑賞し合い、意見交換をする。「このディスカッションでは、ニュースの内容よりも、発表の仕方や話す英語、発音に関する振り返りに重きを置いています」。ニュース番組を視聴者に理解してもらうためには、話し方やスピード、言葉選びに意識を向ける必要がある。それを理解するというのが、自分やクラスメートが英語を話している姿を客観的に見ることの狙いのひとつである。「ニュースというのは人に伝えることが目的なので、番組作成を体験することによって、<相手に伝わる英語>とは何かを知る機会にしてほしいと思いました」。

鑑賞会では自分自身が英語を話す映像を教室の大きなスクリーンで視聴することとなる。「始める前は自分の姿を映像で見ると嫌がる学生もいるのではと心配したのですが、実際にやってみるとみんなプロジェクトの最初から最後までとてもポジティブに取り組んでくれたので感動しました」。

背景としては、プロジェクトを始めるまでの半年間の授業を通して、良い雰囲気が出ていたことも関係があるのではと感じている。「元々人数が少ない授業だった上、グループやペアで行うタスクを組み込んでいたので、クラスの人たちとある程度顔なじみになっていたことが抵抗を少なくしたように思います」。

「もっと上達したい」という モチベーション効果

学生たちは、衣装や小道具まで用意したり笑いをとるポイントを用意したりと、「うれしい誤算」と振り返るほどの熱意を持ってこのプロジェクトに取り組んだ。「こういう取り組みは、嫌々やっても楽しくないですし、そもそも学生が乗り気になってくれないとうまくいきません。その点、今回はみんな本当に楽しそうに取り組んでくれて、



私の期待が10とすれば、20以上のクオリティのものをつくってくれました」。

それを見ている北川講師自身もとても楽しかったというが、学生たちからも「楽しかった」「刺激になった」「もっと英語を勉強したいと思った」など、とても前向きなコメントが多数寄せられた。

「英語を話すスキルというのは、これを1回やったからといって急激に向上するものではありません。しかし、この体験によって、自分の話す英語に対しての気づきを得て、さらに上を目指すためのモチベーションになったことが一番の収穫かなと思います」。

今回は就任初年度ということもあり年間の流れがよく分からず、途中で思いついたアイデアだった。その結果このプロジェクトは1回しか実行できなかったが、次年度以後は2回実施してみたいと考えている。「2回目には発展形としてニュース原稿を見ずに話してもらおうという条件を付けてみたいですね」。

動画コンテンツを作成することは、取り組みの内容を成果物として残すことができるのもメリットだ。今回はファイル形式の変換や容量の問題がクリアできなかったが、将来的にはCourse N@viでシェアすることも考えたいという。

iPadでの動画撮影のさらなる活用法としては、普段のディスカッションの様子を撮影しておくというアイデアも温めている。「それを蓄積していけば、自分のスキルの伸びも確認できます。この授業は同じテーマを何度か違う角度から扱うこともあるのですが、その際も前はどんなことを話していたか確認できれば、内容についての理解が深まるでしょう。授業が掲げる大きな目標であるコンプリヘンションという視点から見れば、記録することによって自分の思考をより深めていくことのできるのではと期待しています」。

ICTが苦手でも、iPadなら気軽に扱える

元々ICTは得意ではなかったという北川講師。「むしろICT機器は苦手でした。未だに苦手意識はありますが、高校で導入され、電子教科書を使ったり、スライドやYou TubeやTEDなどの動画を見せたりという機会が増えたことで、自然と慣れてきた感じです。使ってみるとiPadはそれほど難しくはないので、私のようにデジタルに詳

しい人間でなくても気軽に扱えるのは本当にありがたいですね」。

iPadを利用すると、教室の設備に左右されないのも大きな利点だと感じている。「PCのある教室を指定する必要もありませんし、授業前の機材準備も不要です。実際は授業時間中に機器を操作する時間はそれほど長いわけではないので、むしろPC教室だとPCが活動の邪魔になってしまうこともあります。その点でも、普通の教室で必要なときだけサッと使えるiPadは便利でした」。

今回のプロジェクトを振り返り、何より学生が楽しく積極的に取り組めたことが成功の秘訣だったと感じている。「授業の中で教えてあげられることは限られていて、ニュースの理解を深める、語彙の指導、話す練習、リスニングスキルを伸ばすなど、いろいろ機会を与えることはできても、結局は自分でやらないと英語は上達しません。そのためには自分の英語力について客観的に振り返ってみる機会を与え、モチベーションを高めてあげることがとても重要だと考えています。その意味において、学生たちのポジティブな姿を見られたことは大きな成果です」。

結局は自分でコツコツ勉強するしかないという語学学習において、授業でしかできないことは何なのか。その場で共に学ぶ学生同士で刺激を受け合い、主体性と独創性を引き出しながらモチベーションを高めるというのは、その答えのひとつといえそうだ。